

## f) 女性エンジニアとしてのキャリア構築 ―キャリアの原点は「誠実」―

阪南大学 花川典子

私のキャリアは 27 年前ソフトウェアハウスでの素人プログラマから始まり、システムエンジニアの経験を経て、コンピュータメカでコンサルタントを務め、現在は大学教授として学生指導と研究をこなす日々を送っている。恐らく自分の想定したキャリアよりも専門性の高い充実したキャリアを積み重ねることができた。キャリアを振り返って私のキャリアの原点を探ってみる。

私のキャリアの原点は新人時代の上司だったと思う。学部卒業後いきなりコンピュータ業界に入り、右も左もわからず、仕事もろくにできなかった新人時代に、上司はコンピュータ技術だけでなく仕事の本質も示してくれた。エンジニアとして最も重要なことは「ごまかさず、正直に誠実に仕事をする」と示した。例えば、問題が発生した時、事実を正直に報告し、時間がかかってもその問題に誠実に精いっぱい取り組むことがエンジニアとして最も重要であるということだ。もし、報告で「問題ありません」とごまかしたとしても、必ずそれは後に明るみに出て、より一層状況は悪くなると仕事を通して教えてくれた。この教えは、職種や職場が変わっても 27 年間ずっと肝に銘じて仕事を行った。一見当り前に思えるこの教訓が私のキャリアの原点と思う。そして、ちょっとカッコいいと思ったのは、その上司は言葉ではなく「仕事をする背中」でそれを示してくれたことだ。

その後、様々な仕事やキャリア上の問題に遭遇した。例えば、システムエンジニア時代に顧客から「なんだ、女か」と言われたり、子育て時代には仕事と子育ての両立に苦しみ「なんで女性だけが負担が増えるの？」と悩んだり、大学教員になってからは「女性だから一番楽な授業しかできないでしょ」と言われたり、どの社会でも発生する問題に遭遇した。その都度、「正直に誠実に精いっぱい努力する」を馬鹿のように繰り返し実行した。周囲の人たちは「不公平だから文句を言った方がいい」とか、「馬鹿にされて平気なの？」とか助言をくれたが、エンジニアとしての本質である「正直に誠実に精いっぱい仕事をする」に徹した。もちろん、駆け引きも政治的交渉もなにもない、ひたすら誠実に本来の仕事をすることに徹した。そうすると、時間はかかるが必ず顧客や仕事仲間から人間的にも技術的にも信頼を得ることができた。最初は「女になにができる」と言っていた人が、私に対して絶大な信頼を示してくれたときは、仕事をしていて本当に良かったと感じる瞬間である。苦しい時こそ、誠実に精いっぱい仕事をこなす、そうすると必ず道は開けると強く感じた。

私のキャリア形成は、強引な目標設定やそれに到達するため道筋を政治的な駆け引きをしながら作りあげることに心血を注ぐのではなく、ただひたすらに与えられた仕事を誠実にこなすだけだ。女性の不利を嘆くことに時間を割くよりは、仕事をこなすことに時間を割く。さらに、私に仕事を依頼してくれた人の期待を裏切らないように精いっぱい努力する。そして、顧客や仕事仲間からの得た信頼は次の仕事への原動力となり、自分自身がさらに発展できる。このサイクルで 27 年間で過ごした結果が、私のキャリアアップにつながった。

多くの女性エンジニアが社会で活躍する時代となってきた。女性の権利を声高に主張することもいいだろう。キャリア目標やキャリアパスを設定して精力的に取り組むのもいいだろう。ただ、女性にとって社会には矛盾を感じる場面が多く存在する。それを乗り越えるのは強力なキャリアパスでもなく女性の権利の主張でもなく、ただひたすらに誠実に仕事を精いっぱいこなすことだと思う。この方法は女性の地位向上において遠回りな時間がかかるような気がするが、本当は女性の地位向上に一番の近道ではないかと思う。女性の権利を声高に主張して認めてもらうより、仕事を誠実にこなし、人間的にも技術的にも信頼を得る方が強固で持続性のある女性の地位向上につながると考える。「正直に誠実に仕事に取り組む」のエンジニアの基本に立ち返って、一人でも多くの女性エンジニアに充実したキャリアを形成してほしいと願う。